Web 方式による授業アンケートの報告
A brief report on the result of a web-based evaluation survey by students

関口理久子（関西大学社会学部）
Rikuko Sekiguchi　(Kansai University, Faculty of Sociology)

キーワード　アンケート、Web 方式、学修態度への自己評価 ／evaluation survey by students, web-based, self-evaluation on learning attitude

1.　Web 方式による授業アンケート

関西大学では、2018 年 10 月より 2019 年 3 月にかけて、それまでの記述式による授業評価アンケート（以下、旧アンケート）を Web 方式による授業アンケートへと変更するため、全学的な準備を行ってきた。2019 年度秋学期にはパイロット版を実施し、2020 年度春学期からは、Web 方式によるアンケートを実施する予定としていた（関口、2020a）。

2020 年度の春学期は、コロナ禍により関西大学は遠隔授業を余儀なくされた。授業アンケートの実施責任組織である関西大学教育開発支援センターもコロナ禍における遠隔授業対応に追われていた（関口、2020b）が、授業アンケートに関しては、Web 方式のアンケートを実施する予定であったため、若干の変更を加えることで、混乱なく実施することが可能であった。また、秋学期に関しては、原則対面授業を実施するが遠隔授業も併用したため、春学期の変更点を継続し授業アンケートが行われた。

2.　2020 年度春学期と秋学期の変更点

上述した変更の主な点は、実施方法と設問の注意書きである（表 1、付表 1）。

実施方法では、予定では Web 方式と自由記述用紙を併用し、各科目のアンケートの QR コードや URL アドレスについては自由記述用紙に記載されており、ダウンロードも可能としていた。学生の自由記述に関しては、Web 方式ではなく別途紙媒体での回答を求める予定であった。しかし、2020 年度春学期は、遠隔授業であったため、自由記述もすべて Web 方式のみで行った。

表１　授業アンケート（予定）と 2020 年度実施の授業アンケートの対応について

区分	授業アンケート（2019年3月段階での予定）（2019年3月段階での予定）	授業アンケート（2020年度春秋学期に実施）
趣旨・目的	授業改善と内部質保証に対応させた学修評価	変更なし
対象科目	全開講科目	変更なし
アンケートの種類	最終アンケート（中間アンケートは希望があれば実施）	最終アンケートのみ実施
	WEB方式・自由記述用紙	WEB方式のみ
調査方法	QRコードやURLは自由記述用紙に記載・ダウンロードも可能	QRコードやURLは自由記述用紙に記載・ダウンロードも可能
実施期間と実施時間	第13週目方各学期試験最終日まで・原則授業中だが、授業外も可	変更なし
項目数	共通質問９問と担任者提示項目1問・学部独自項目5項目	変更なし
記銘方法	無記名	変更なし
結果の閲覧（教員）	集計結果をデータとしてフィードバック・担任者によるクロス集計が可能	変更なし
結果の閲覧（学生）	シラバスより集計結果を閲覧	変更なし

3.　2020 年度春学期アンケート結果について

2020 年度春秋学期授業アンケートの対象と回答率は表 2 に示した。

表２　2020 年度春秋学期授業アンケートの対象科目と回答率

	春学期	秋学期
対象科目数	5745	5771
履修者（延べ人数）	290068	266631
回答者（延べ人数）	38479	39782
実施率(%)	35.2%	45.2%
回答率(%)	13.3%	14.9%
回答率(%)＊	35.4%	－

Note.　＊旧アンケート対象科目に相当する科目のみを抽出し算出した場合。秋学期については処理中のため掲載していない。

春学期アンケートは、2020 年 7 月 9 日から 7 月 29 日の間に行われた。アンケートの結果については、教員へは担当科目ごとの集計結果とデー

タファイルが、学生へは履修科目ごとの集計結果がフィードバックされた。また、質問項目 1~質問項目 9 については、13 学部（法学部、経済学部、商学部、社会学部、政策創造学部、外国語学部、人間健康学部、総合情報学部、社会安全学部、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部）、教養科目（理工）、共通教養科目（外国語）、共通教養科目、国際教育別の平均値を算出し、既に結果の概要を Web にて公開している（図 1）。

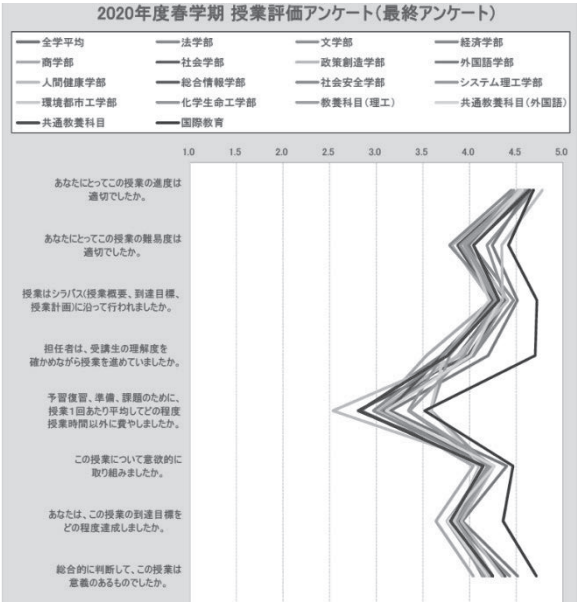

図１　Web 公開されている 2020 年度春学期アンケート結果の概要

春学期アンケートの概要をまとめると以下のとおりである。なお、項目の選択肢と数量化数値については付表 1 に示している。

第一に、Q1 の授業の進度と Q2 の授業の難易度の評価値については、突然の遠隔授業導入によりどの科目も授業実施方法や授業計画の変更を余儀なくされたにも関わらず、進度・難易度とも「やや適切」から「適切」の間の値であった。この項目は旧アンケートにもあった項目であるが、2019 年度の結果と比較してもほぼ同様の結果であった。

第二に、旧アンケートになかった新項目のうち、シラバスとの整合性を問う Q3 では、遠隔授業によるシラバス変更を 5 月末に実施したこともあり、4.0 以上の値であった。

第三に、学生の学びへの態度を問う新項目の Q7 の意欲的学び、Q8 の到達目標の達成度、および Q9 の総合判断についてまとめると、特に Q7 の意欲的な取り組みが 4.0 以上の高い数値を示した。以上より、春学期は遠隔授業であったにも関わらず回答した学生たちの学修態度は維持されていたと考える。しかし、これはあくまで回答者のデータに基づいた平均値であり、回答率が 30%程度にとどまったため、回答しない学生たちの学修態度については不明である。関西大学では、授業アンケートとは別に、2020 年 7 月 6 日から 7 月 31 日の間に、教学 IR 実施による遠隔授業についてのアンケートを春学期に行った。この結果からは、春学期遠隔授業での困った点などが多く明らかになっており、このような点を考慮すると、この結果だけで何らかの結論付けを行うのは早急であると考える。

4.　2020 年度秋学期アンケート結果について

秋学期アンケートは、2020 年 12 月 14 日から 2021 年 1 月 29 日までの間に行われた。秋学期アンケートについては、本稿執筆中の段階では春学期同様の結果の概要を示すことができないが、速報データのみに基づく全体の概要を報告する（表 3）。

表３　各質問項目の学期別平均値

項目番号	区分	春学期	秋学期
Q1	進度	4.6	4.5
Q2	難易度	4.0	4.1
Q3	シラバスとの整合性	4.3	4.4
Q4	理解度確認	3.9	4.1
Q6	学修時間[a)]	3.1	1.6
Q7	意欲的学び	4.2	4.2
Q8	到達目標の達成度	3.8	3.8
Q9	総合判断	4.2	4.3

Note. [a)] ①全くしない（数量化数値=1）、②30分未満（数量化数値=2）　③30分から1時間未満（数量化数値=3）

全体の回答では、春学期同様の傾向が示されたが、Q6 の学習時間に関しては、春学期よりも予習・復習時間が減る傾向であった。

関西大学では、2020年度秋学期は、原則対面授業を実施するが、オンデマンド講義を主とする遠隔授業も併用した。遠隔授業か対面授業かの関西大学としての基準は、履修者が250名以上を遠隔授業とすることを目安としたが、各学部の判断を優先し、それ以下の履修者数でも遠隔授業とする科目が存在した。関口（2020a）では、履修サイズによる影響は、Q4 から Q9 の項目において示され、特に履修サイズが大きい場合（75～305 名）は評価値が低くなる傾向にあった。そこで、2020年度秋学期に関しては、履修者数別にアンケート結果をまとめた。秋学期の履修者数は１名～800名であったが、履修者数の区分は、1～49 名を履修サイズⅠ（以下Ⅰ）、50～149 名を履修サイズⅡ（以下Ⅱ）、150～249名を履修サイズⅢ（以下Ⅲ）、250名以上を履修サイズⅣ（以下Ⅳ）とした。

Q1 の進度の「3.適切」を選んだ人数について、4 群間に差があるかどうかを Kruskal Wallis 検定により比較したところ、4 群間で有意に人数の差が認められ（$H(3)=84.9, p<.001$）、2 項検定により多重比較を行ったところ、適切を選んだ人数は多い順にⅠ>Ⅱ>Ⅳ>Ⅲとなり（$ps<.01$）、50 名未満の履修者で最も進度が適切と判断する学生が多かった。Q2 の難易度についても同様の検定を行ったところ、4 群間で有意に人数の差が認められ（$H(3)=151.4, p<.001$）、多重比較の結果は進度と同様多い順にⅠ>Ⅱ>Ⅳ>Ⅲとなり（$ps<.01$）、50 名未満の履修者で最も進度を適切と判断する学生が多かった。Q5 を除く他の項目については、評定値を従属変数とし、履修サイズを独立変数とする 1 要因の参加者間計画の分散分析を行ったところ、すべての項目について履修サイズの主効果が有意であった（Q3:$F(3, 35516)=61.8$; Q4:$F(3, 39723)=396.1$; Q6:$F(3,39659)=324.8$; Q7:$F(3,39629)=273.5$; Q8:$F(3,39655)=148.3$; Q9:$F(3, 39631)=123.1$, $ps<.01$, partial $\eta^2=.005-.029$）。多重比較（Tukey's T）の結果をまとめると、履修サイズが 50 名未満の場合は評価値が高かったが、250 名以上の遠隔授業においても比較的評価値が高かった（表 4）。これは 250 名以上では必ずオンデマンド授業であったため、学生たちが自分のペースで学修を進めることができたことが要因ではないかと推察できる。

表 4　履修サイズによる各項目の比較

項目番号	区分	履修者サイズ* Ⅰ Mean	Ⅰ SD	Ⅱ Mean	Ⅱ SD	Ⅲ Mean	Ⅲ SD	Ⅳ Mean	Ⅳ SD	多重比較
Q3	シラバスとの整合性	4.5	0.8	4.3	0.8	4.3	0.8	4.5	0.8	Ⅱ,Ⅲ<Ⅰ,Ⅳ
Q4	理解度確認	4.3	1.0	3.9	1.1	3.9	1.1	4.0	1.0	Ⅲ<Ⅱ<Ⅳ<Ⅰ
Q6	学修時間	1.7	1.2	1.4	1.2	1.3	1.2	1.7	1.1	Ⅲ<Ⅱ<Ⅰ,Ⅳ
Q7	意欲的学び	4.3	0.8	4.0	0.9	4.0	0.9	4.2	0.8	Ⅱ,Ⅲ<Ⅰ,Ⅳ
Q8	到達目標の達成度	3.9	1.1	3.7	1.1	3.6	1.2	3.9	1.1	Ⅱ,Ⅲ<Ⅰ,Ⅳ
Q9	総合判断	4.3	0.9	4.1	0.9	4.2	0.9	4.3	0.8	Ⅱ,Ⅲ<Ⅰ,Ⅳ

Note.　*履修者数によりⅠ：1-49名、Ⅱ：50-149名、Ⅲ：150-249名、Ⅳ：250名以上とした。

5.　まとめ

本稿では、2020 年度より開始した Web 方式によるアンケート結果の概要を報告した。導入初年度を終えて、以下 3 点が今後の課題と考えられる。

第一に、2020 年度は実施初年度であったが、それと同時にコロナ禍における授業形態や授業設計が大きく変化した年でもあった。したがって 2020 年度のデータのみから Web 方式の授業アンケートの是非や回答率について論じるのは性急である。特に、学修態度や予習・復習時間に関するデータはコロナ禍の影響を受けた特別な結果なのか、あるいは、平時でも同様かを判断することも難しい。今後も毎年度データの推移を追跡することが必要であろう。

第二に、昨年度からの懸案事項である回答率をあげる工夫が今後は必要である。

第三に、個々の教員がアンケート結果を参考にして、授業設計を見直し、授業方法を変更するなど、FD 活動へ生かす工夫を教育開発支援センターにおいて提示していく必要があると考える。

参考文献

関口理久子（2020a）「Web 方式による授業アンケートのパイロット版についての報告」『関西大学高等教育研究』11, 157-166 .

関口理久子（2020b）「教育開発支援センターの遠隔授業への取り組み」『大学時報』393, 46-49 .

付表1　2020年度実施の授業アンケートの質問項目および選択肢（数量化数値）

質問番号	区分	質問項目と選択肢
Q1	進度	あなたにとってこの授業の進度は適切でしたか。[a)] ①遅い(1)　②やや遅い(3)　③適切(5)　④やや速い(3)　⑤速い(1)
Q2	難易度	あなたにとってこの授業の難易度は適切でしたか。 ①易しい(1)　②やや易しい(3)　③適切(5)　④やや難しい(3)　⑤難しい(1)
Q3	シラバスとの整合性	授業はシラバス(授業概要、到達目標、授業計画)に沿って行われましたか。[b)] ①行われた(5)　②ある程度行われた(4)　③どちらともいえない(3)　④あまり行われなかった(2)　⑤行われなかった(1)　⑥シラバスを見ていない(1)
Q4	理解度の確認	担任者は、受講生の理解度を確かめながら授業を進めていましたか。b)**※対面授業でない場合でもお答えください。例えば、授業外であっても関大LMSなどを用いて理解度を確認している場合やレポートなどによる確認の場合もありますので、それを含めて総合的に回答してください。** ①進めていた(5)　②ある程度進めていた(4)　③どちらともいえない(3)　④あまり進めていなかった(2)　⑤進めていなかった(1)
Q5	改善のポイント	この授業で工夫してほしいと思うものをすべて選んでください。（複数選択）**※対面授業でない場合は、あてはまるもののみ回答してください。「⑥提示の仕方」は板書ではなくパワーポイントのみで回答してください。**[C)] ①シラバス　②授業計画　③配付教材　④授業中の環境　⑤説明の仕方　⑥提示の仕方（板書やパワーポイントなど）　⑦授業内容　⑧時間外学習の支援　⑨学生への接し方　⑩課題のフィードバック　⑪特にない
Q6	学修時間	予習復習、準備、課題のために、授業１回あたり平均してどの程度授業時間以外に費やしましたか。 ①予習・復習を全くしなかった(1)　②30 分未満(2)　③30 分～１時間未満(3)　④１～２時間未満(4)　⑤２～３時間未満(5)　⑥３時間以上(6)
Q7	意欲的学び	この授業について意欲的に取り組みましたか。[b)] ①意欲的に取り組んだ(5)　②ある程度意欲的に取り組んだ(4)　③どちらともいえない(3)　④あまり意欲的に取り組んでいない(2)　⑤意欲的に取り組んでいない(1)
Q8	到達目標の達成度	あなたは、この授業の到達目標をどの程度達成しましたか。[b)] ①達成できた(5)　②ある程度達成できた(4)　③あまり達成できなかった(3)　④達成できなかった(2)　⑤到達目標を知らない(1)
Q9	総合判断	総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。[b)] ①意義のあるものだった(5)　②ある程度意義のあるものだった(4)　③どちらともいえない(3)　④あまり意義あるものでなかった(2)　⑤意義のあるものでなかった(1)
Q10	担任者提示項目	担任者が示す質問に対して５段階で評価してください。[b)] ①そう思う(5)　②ややそう思う(4)　③どちらともいえない(3)　④あまりそう思わない(2)　⑤そう思わない(1)

Note. [a)]③を選択すると5となり、5に近いほど適切であることを示す。[b)]逆転項目　[c)]選択された場合は1、選択されない場合は０とする。